

急拡大見込まれる メタバース関連市場に着目

リテール事業本部副本部長の山本直紀氏に聞く

日興アセットマネジメントは、3月31日に「グローバル・メタバース株式ファンド」を設定・運用を開始している。主に、世界の上場株式の中からメタバースに関連するビジネスを行う企業の株式などに投資するファンドである。個別銘柄の選定では、イノベーションにフォーカスした調査に強みを持つ、米国のアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（アーク社）からの助言をもとに、日興アセットマネジメントアメリカズ・インクがポートフォリオを構築する。「メタバース」という言葉は最近、聞かれるようになってきたが、まだよく分からないという方も少なくないとみられる。「メタバースとは何か」とともに、同ファンドの設定の背景や、特徴、魅力、運用のポイントなどについて、日興アセットマネジメントのリテール事業本部副本部長の山本直紀氏に聞いた。



す「Web3.0」について説明したい。一般に、Webページを閲覧するだけの一方的な情報受信が中心だった時代のインターネットを「Web1.0」（1990年～2005年ごろ）、SNS（交流サイト）のTwitterや動画配信のYouTubeなど双方向のやりとりが可能となり、ユーザー自身も参加できる時代を「Web2.0」（2005年ごろ～現在）と定義されることが多い。こうした従来のインターネットに対して、ブロックチェーン（分散型台帳）やNFT（非代替性トークン。そのデジタル上のアセットが唯一無二であることを証明したり、所有者を明確にできる技術）などの新技術によって新たな段階に移行しつつある「Web3.0」が、それまでの世代と異なる最も重要な点は「デジタル上の所有権（デジタルオーナーシップ）」や「相互運用性」が備わっていることだとされている。

これまでのインターネットの世界では、ユーザーが購入または保有するデータは企業が管理するサーバー上に存在し、ユーザーはそれを参照するという構造だったが、NFTによりユーザー自身がデジタルアセットの所有権を取得・保持することができるようになる。自分の情報は、自分で確保するわけだ。これが「デジタルオーナーシップ」だ。

もう一つ重要なポイントは「相互運用性」。例えば、Web2.0は、ゲーム会社A社、SNSのB社、ネットショッピングC社、といった各プラットフォームそれぞれに対し、ユーザーは情報を差し出し、その利用は個々のプラットフォーム内に限定されていた。しかし、「Web3.0」では異なるプラットフォーム間でも横展開ができて、データやアセットの移転などが可能となる。

「デジタル」と「リアル」の融合の世界へ

■メタバースの世界とは

「メタバース」のメタは超越、ユニバースは宇宙という意味で、メタバースはこの2つの言葉を組み合わせた造語である。一般にデジタル上に構築されたバーチャル（仮想）世界および関連サービスを指すが、本来はデジタル、リアル（現実世界）を問わず、あらゆるものが相互接続された世界をいう。デジタルの中だけで行われているものだけでなく、リアルも融合していくような世界がメタバースといえる。

今、新技術の発展によりインターネットの進化は新たな局面に突入している。「メタバース」と聞いて、ゲームやバーチャル世界を思い浮かべ、「自分にはあまり関係ない」と考える方も少なくないだろう。しかし、それらはメタバースのごく一部にすぎない。

デジタルアセット（デジタル上の資産）の所有や移転を可能にするメタバースは巨大なデジタル経済を創出し、無限の可能性を有していると考えられる。この新しい時代の到来に、世界の企業は並々ならぬ関心を向けており、さらなる発展と進化を目指して競争は既に始まっている。マーク・ザッカーバーグCEOが率いるフェイスブックが社名をメタに変更し、メタバースでのビジネス進出を表明したことはその象徴的な出来事と言える。

比較的上の世代の方であれば、メタバースというと、VR（仮想現実）ゴーグルを着けてゲームで遊ぶ姿などをすぐに思い浮かべるかもしれないが、メタバースは単にゲームやVR上にあるのではな

い。従来、インターネット（デジタル）の世界は、現実世界（リアル）と別世界に分かれていた。しかもデジタル世界の中でもプラットフォームごとに分断されている。これに対してメタバースは、コミュニケーション、ショッピング、仕事、教育、趣味、エンターテインメント、ゲームなどあらゆるものがデジタルとリアルの垣根を越えて相互に接続されている世界だ。

様々な経済活動や商品、サービスなどがメタバースと絡み合い、現実世界と同様にデジタル上で多様なビジネスが展開されることで、巨大なデジタル経済を構築することが期待されている。

■メタバースの関連市場規模の見通し

メタバースに関連するビジネスには、バーチャル世界自体およびその世界におけるコンテンツの提供などの「バーチャル世界・アセット」、デジタルインフラ・機器などの「インフラストラクチャ」「Web3.0（次世代インターネット）の基幹技術」などに関するものがある。こうしたメタバース関連ビジネスの市場規模は今後大きな拡大が期待されており、当ファンドの運用助言を行っているアークでは、2021年～30年までの9年間に市場全体で7.2倍、年平均24.7%の急成長を遂げると予測している。その内訳は、現在既に先行して市場規模が広がっている「バーチャル世界・アセット」が14.8%の成長が見込まれているのに対し、「インフラストラクチャ」が24.1%、「Web3.0の基幹技術」は84.6%の高成長が予想されている。

■インターネットの進化

メタバースで重要な役割を果た